

腎臓・透析専門医研修ネットワークプログラム

腎臓専門医研修（一般社団法人 日本腎臓学会）

透析専門医研修（一般社団法人 日本透析医学会）

1 はじめに

プログラムリーダー 富士市立中央病院 副院長兼腎内科部長 笠井健司

本プログラムは日本腎臓学会と日本透析医学会認定研修施設の資格をもつ、静岡県東部地域の病院群による日本腎臓学会・日本透析医学会認定専門医取得を目的として構成されたものです。これら病院群から希望する病院をいくつか選択して研修することにより、一病院では経験できない多彩な臨床研修が可能となります。



それぞれに特色のある病院を多施設廻ることにより、臨床上、多彩な全身管理が重要となる腎疾患、透析患者の診断、治療、血液浄化療法など幅広く研修できると思います。また、各病院の関連の大学医局とも連携も可能であり、現在の腎臓病学、透析療法の最高水準を研修できるプログラムになっています。

富士山、伊豆半島、駿河湾、相模湾と自然に恵まれた静岡県東部地域で人間味豊かな生活を楽しみながら、将来、静岡県の医療に貢献したいという意欲に溢れた若い医師が多数、本プログラムに参加してくれる事を心から願っています。

2 特徴

将来、静岡県東部地域の腎臓病患者、透析患者の医療に貢献したいという医師を育成する事を目的としています。日本腎臓学会及び日本透析医学会で規定された研修カリキュラムを満たし、その上で、別に記載する各病院の特色を生かした研修プログラムである。多施設を希望に従って選択する事ができ、その期間中に各病院の関連する大学医局での研修も可能です。

研修終了後は本プログラムに参加している病院のスタッフとなる事を基本としますが、その他希望があれば可能な限り支援いたします。

3 目的

初期臨床研修で身に着けた臨床力を高めつつ、専門医としての知識と技術を深めていきます。

- 1) 腎臓病診療と透析診療のアップデートな知識と技術を備える。
- 2) 腎臓病診療と透析療法におけるチーム医療が実践できる。
- 3) 他の診療科との連携により包括的な医療が提供できる。
- 4) 地域医療連携の意義を理解し実践できる。

4 目標

- 1) 静岡県東部の医療に貢献できる尊敬される優秀な医師になる事
- 2) 内科学会認定医、外科学会認定、小児科学会専門医、泌尿器科学会専門医、または麻酔科学会指導医（透析医学会専門医のみ）を取得後、日本腎臓学会、日本透析医学会認定専門医の取得

5 研修カリキュラム

基本として、日本腎臓学会および日本透析医学会の研修カリキュラムに準ずる。

主な研修内容

- 1) 1次性、二次性糸球体疾患や尿細管・間質疾患の鑑別、腎生検の施行、腎組織所見の鑑別、治療について知識を修得
- 2) 慢性腎不全では、原疾患の鑑別、腎機能評価、予後、治療法（食事、薬物、透析法）の修得
- 3) 維持透析患者での内シャント造設、血液透析・腹膜透析導入、透析効率評価、栄養評価、電解質代謝異常に対する処置、貧血鑑別とその対応などを修得
- 4) 急性腎不全の原因・病態生理の把握（腎生検の評価も含めて）・腎機能評価・治療（薬物、血液浄化の選択など）の修得
- 5) 総合診療領域においての電解質・酸塩基平衡異常の診断・鑑別から原疾患鑑別の修得
希望によって関連大学医局（浜松医科大学第1内科腎臓グループ、東京慈恵会医科大学腎臓内科、順天堂大学腎臓内科など）での半年から1年の研修可能。

日本腎臓学会腎臓専門医取得申請資格

- 1) 医師免許
- 2) 日本腎臓学会の会員歴5年以上
- 3) 日本内科学会認定医取得後3年以上
日本小児科学会専門医取得後1年以上
日本外科学会専門医取得後1年以上
日本泌尿器科学会専門医取得後1年以上
- 4) 日本腎臓学会が指定する研修施設で別に指定する研修カリキュラムに基づく研修3年以上

日本透析医学会専門医取得申請資格

- 1) 医師免許
- 2) 日本透析医学会の会員歴3年以上
- 3) 日本内科学会認定医、日本小児科学会専門医、日本外科学会専門医、日本泌尿器科学会専門医又は麻酔科学会指導医の資格を有し、5年以上の臨床経験を有する者。
- 4) 日本透析医学会の認定施設または教育関連施設において、5年以上の研修
- 5) 学会出席ならびに業績で30単位

6 研修例

- 1) 本プログラム参加病院群から研修病院を選択して、およそ1年間ずつの研修を基本とする。日本腎臓学会腎臓専門医は3年間、日本透析医学会専門医は5年間の研修を行う。
- 2) 日本内科学会など基本学会の認定医などの取得から研修する場合は、それに要する年数をさらに必要となる。

【例】

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	富士市立中央病院											
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	富士宮市立病院											
3年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	順天堂大学医学部附属静岡病院											
4年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	富士市立中央病院				試験		発表	三島総合病院				
5年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	透析専門医取得を目指し、ローテーション中に研修先を相談・調整する											

7 研修病院群

富士市立中央病院

日本腎臓学会指導医・専門医 笠井健司（1981年 東京慈恵会医科大学卒）

日本腎臓学会専門医 宇田川崇（1999年 東京慈恵会医科大学卒）

日本透析医学会指導医・専門医 笠井健司（1981年 東京慈恵会医科大学卒）

日本透析医学会専門医 宇田川崇（1999年 東京慈恵会医科大学卒）

富士市は温暖な気候に恵まれた豊かな地域であり、首都圏や名古屋圏へのアクセスが良好な地域です。私たちの病院は市内の中心に位置する市唯一の基幹病院で、要請があるほぼ全ての患者の診療に当たっています。

当院には腎臓内科5名を含む28名の内科系医師が常勤しています。各自専門を持ちながら同時に内科全般の診療にもあたっており、各専門診療科の連携がよいのが自慢です。

腎臓内科の実績は別表の通りです。富士市では2013年4月より市役所、医師会と連携して「富士市CKD（慢性腎臓病）ネットワーク」を発足させ、市を挙げてCKD対策に取り組んでいます。発足前と比較して紹介患者数、腎生検件数が増加し、早期に腎臓病や併発症が診断できるようになってきています。また、血液透析だけでなく腹膜透析の診療実績も豊富で、各種血液浄化療法にも対応しています。

内科診療のスキルをアップさせながら日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医を取得するための十分な知識と経験を積んでいただけていると思っています。

富士宮市立病院

指導医 米村克彦(1980年 浜松医科大学卒)

専門医 榑間昌哲(1997年 埼玉医科大学卒)

1. 腎臓内科・膠原病内科領域の診療に加えて、他の領域での診療（呼吸器内科、内分泌・代謝内科、総合診療内科領域）も同時に行います。入院治療は指導医の下で初期研修医の指導も行うことがあります。
2. 希望があれば、循環器科での研修、放射線科での画像診断の研修も可能です。
3. 入院・外来診療に加えて、初期研修医の指導を中心として日勤帯での救急室でのプライマリケアを週1～2日行います。
4. 腎臓生理学的な考えに基づく急性腎不全の病態生理、水－電解質－酸塩基平衡の研修
5. 日本アフェレンス学会認定血漿交換療法専門医取得可能（富士宮市立病院）
日本アフェレンス学会認定施設5年以上の研修

国際医療福祉大学熱海病院

三島総合病院

静岡医療センター

順天堂大学医学部附属静岡病院

8 病院群の実績（平成 26 年 1 月～12 月、入院症例、DPC 病名登録による）

		三島総合病院※	静岡医療センター※	富士市立中央病院	富士宮市立病院	国際医療福祉大学 熱海病院※	順天堂大学医学部 附属静岡病院
腎臓内科学会 研修施設		○	○	○	○	○	○
透析医学会 ○:認定施設 △:関連施設		○	△	○	○	○	△
入院患者疾患 治療(症例数)	慢性腎不全	82	99	365	147	459	-
	急性腎不全	2	52	47	14	40	-
	慢性糸球体腎炎	0	4	58	17	5	-
	急速進行性腎炎 (ANCA 関連血管炎を含む)	0	5	14	11	6	-
	急性間質性腎炎 (サルコイドーシスを含む)	0	53	42	2	4	-
	膠原病	0	13	77	11	5	-
	高血圧(精査)	375	556	106	7	501	-
	悪性高血圧	0	0	5	0	0	-
	電解質異常	15	62	158	45	41	-
	被嚢性腹膜硬化症	0	0	0	0	0	-
	腎生検	0	6	50	12	15	-
	新規透析導入	11	5	84	70	25	-
	急性血液浄化療法	6	25	34	103	23	-
	CAPD患者数	11	0	26	4	76	-
内シャント	10	6	77	77	52	-	

※は平成 25 年実績

9 研修期間

3年から5年（学会会員歴等を勘案して個別に決定）

10 プログラム参加者の要件

腎臓内科専門医及び透析専門医を目指す医師なら誰でもウエルカムです。

11 処遇

- 1) 身分
- 2) 給与
- 3) 健康保険等の福利厚生制度
- 4) 医師賠償責任保険
- 5) 休日等
- 6) 宿舎
- 7) 学会費用

原則として、研修する病院の規定に従う。

12 プログラム修了後の進路

研修終了後は本プログラムに参加している病院のスタッフとなる事を基本とします。

しかし、他に希望があれば可能な限り支援します。

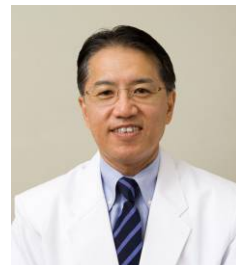
13 プログラム運営委員（◎：プログラムリーダー）

◎富士市立中央病院 副院長兼腎臓内科部長 笠井健司（1981年東京慈恵会医科大学医学部卒）

認定内科専門医、総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医・学術評議員、日本透析医学会専門医・指導医、日本腹膜透析医学会評議員、エンドトキシン救命治療研究会幹事

私は20年余りにわたって富士市立中央病院で腎臓病ならびに内科全般の診療にあたっています。当院の腎臓内科医師はいずれも慈恵医大でトレーニングを受けており、急性腎障害、慢性腎臓病、電解質異常などについて豊富な知識と経験を有しています。内科全般の広い視野と腎臓病、透析領域の深い知識とスキルを身につけていただけたと思います。

略歴：1975年山梨県立甲府第一高等学校卒業、1981年東京慈恵会医科大学卒業、1981年聖路加国際病院内科レジデント、1984年東京慈恵会医科大学第二内科入局、1987-1989年米国UCLA留学、1991年富士市立中央病院腎臓内科部長、2006年東京慈恵会医科大学准教授（派遣中）、2009年同副院長兼腎臓内科部長



富士宮市立病院 院長 米村克彦（1980年浜松医科大学卒業）

当院の腎臓内科専門医は2名、専門医取得を目指している医師が4名います。慢性・急性腎不全の病態生理・治療のみならず、慢性糸球体腎炎、膠原病などの腎生検を含めた診断・治療経験が豊富であり、電解質異常・酸塩基平衡異常などの病態解明、各種のアフェレシス療法にも、スタッフの造詣も深く、腎臓内科医としての幅広い知識・経験を得ることができると信じております。



三島総合病院 人工透析センター長 森田尚克（1994年 東海大学医学部卒）

当院では透析専門医1名が、保存期腎不全、透析導入（血液透析及び腹膜透析）、そして維持透析を中心に末期腎不全の総合的な診療を行っております。また急性血液浄化療法やアフェレシス療法など、血液浄化療法には全般に対応しております。